

支援教育部ニュース

第15号

令和8年3月6日

発行：八尾支援学校

文責：伊藤健太

令和7年度公開授業・研究協議会 まとめⅡ

第14号の続きです。ご覧ください。

考える力(課題対応能力)

- ・言葉かけやタイマーなどで場面の切り替えができる。・決められた時間、最後まで作業を実行できる。
- ・アドバイスを受け入れたり、支援を求めたりする。・目標を意識して取り組むことができる。など



この分野は物事に対して計画的に取り組むだけでなく、物事の完成までのプロセスを見通して計画を立てる能力も含まれています。社会生活の中では、「〇日までに△△をする、そのために今日は□□をしておく。」と長期的な計画を立てることが必要となります。1時間の授業の中だけでは難しいですが、「●週間後のこの時間に完成できるように進め方を自分で考えよう。」等、作業の進捗を自分で考える機会を作ると計画性の学習につながるかもしれません。

また、指示されたことを遂行するだけでは「考える」力は育ちにくいものです。あえてすべての指示をせずに児童生徒自身が考えて行動する「余白」を残すことも大切です。児童生徒個々の発達を考慮し、どこまで指示をしてどこまで自由な部分を作るか、授業づくりの際に考慮したいところです。



将来



チャレンジする力(キャリアプランニング能力)

- ・目標を意識して取り組むことができる。・わからないことを調べることができる。
- ・やりたいことを選んで取り組むことができる。・将来の仕事イメージすることができる。など

チャレンジする力の「職業理解」には、働くことや報酬の理解が含まれていますが、その前段階として「物事をした後に良いことが起きる(褒められる)→次も頑張ってみよう。」というサイクルを通して、物事に前向きにチャレンジをする姿勢を育てることが大切です。少し難しい課題に対しても「頑張った成果として認められるという安心感」がチャレンジをするモチベーションにつながります。児童生徒一人ひとりの意欲を高めていくことにも着目して授業を展開してみたいと思います。

また、「選択」をするためには、選択肢の中身を知ることが大切だと思います。学校生活では好き嫌いに関わらず様々な経験がありますが、その多様な経験が今後の人生を「選ぶ」情報となり、より豊かな人生につながります。自閉的な傾向が強い児童生徒の中には変化への対応が苦手な特性を持つ人もいますが、授業を通して様々な経験を増やすことが大切だと思います。



来年度も2回の公開授業を実施します。ぜひご参加ください。